

令和6年度 学校評価（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度設定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程・学習指導	①一人ひとりの学びやすさに応じてICT機器の活用を工夫し、ねらいを明確にした授業を実践する。 ②「かかわる力」の育成を目指し、教育的ニーズを踏まえた系統性と連続性のある教育活動を推進する。	①ねらいを達成するための効果的な教示や教具の活用をする。 ②各授業における教科のねらいを明確にした授業を推進する。	①障害の状態や発達段階に応じてICT機器の利用や視覚支援等を活用し、計画的に授業実践を行う。 ②単元計画作成に教科のねらいをおさえて計画をたてる。	①ICT機器の活用によって、効果的な授業実践につなげることができたか。 ②教科のねらいを押さえた授業実践ができたか。
2	児童・生徒指導・支援	①人権を尊重し、関係者の連携によるチーム支援を行い、教育活動を効果的に推進する。 ②共通のアセスメントの活用をすすめ、個別最適な指導・支援に組織的に取り組む。	①全校が人権尊重の視点に立ち、連携して児童・生徒の指導・支援を進める。 ②関係者で協力し給食の配慮食の充実を図り全ての食形態に適した給食を提供する。 ③全校で共通のアセスメントを実施し、同一観点をもち指導実践を行う。	①人権に配慮した児童・生徒への丁寧な指導・支援をおこなう。 ②食形態や給食指導のポイント等を校内関係者で整理しより良い給食指導を目指す。 ③アセスメント結果に基づき実践例を活用した指導を行う。	①全校で人権に配慮した丁寧な指導・支援ができたか。 ②全ての食形態に適した給食の提供ができたか。 ③実践例を活用することで指導のポイントが整理され共通見解を持った指導ができたか。
3	進路指導・支援	①児童・生徒の自立と社会参加に向け、児童・生徒が地域社会で豊かに生きる力を育む。 ②児童・生徒の主体的な進路選択に向けて、保護者や関係機関と連携し、進路指導・支援の充実を図る。	①早い段階からの連続性のある進路指導・支援を行うため各学部でテーマを決めて取り組む。 ②個々の実態や希望に合った進路選択を生徒自身ができるよう保護者や関係機関と連携し支援する。	①前期後期ごとに各学部でテーマを決めて取組み、振り返りを行う。 ②支援方法を工夫し生活のさまざまな場面で児童・生徒自身が選択する機会を設定する。 ③保護者や関係機関、児童・生徒との合理的配慮・調整につなげる。	①テーマに沿った指導の実践ができたか。 ②児童・生徒が選択することができたか。選択の結果を児童・生徒の実態に応じて指導・支援に生かすことができたか。
4	地域等との協働	①地域関係機関との連携を充実させ、地域における教育活動の深化と新たな展開を図る ②センター的機能の発揮や児童・生徒・教職員の地域との交流を通して共生社会の実現に向けた働きかけを行う。	①関係機関と連携した地域における教育活動を精選し、第2の教室として深化させる。 ②地域のニーズも踏まえた情報の発信や活動をする。	①一つひとつの活動のねらいを明確にした指導を行う。 ②ホームページや回覧板を活用して情報を発信するとともに、地域等のニーズを把握する。	①地域活動のねらいを明確にできたか。 ②地域等の情報発信は的確であったか。また、地域の方のニーズを聞くことができたか。
5	学校管理 学校運営	①あらゆる災害を想定した防災体制の強化を促進し、対応マニュアルの整備や必要な訓練を実施し有事に備える。 ②さまざまな面での働き方改革を促進し、業務改善を図る。	①学校運営協議会の防災部会を立ち上げ地域との連携した防災をスタートさせる。 ②私費会計などの会計業務について整備し業務改善につなげる。	①初動マニュアルの整理や訓練の内容や方法の見直し等を行い、地域と連携した災害に対応する力をつける。 ②適切な業務分担やわかりやすい簡潔な会計業務を計画的に改善、整理を行う。	①地域との連携した防災体制の強化が図れたか。学校としての災害対応能力の向上が図れたか。 ②会計業務が整理され業務改善につながったか。